

授業改善書

科目名	健康科学Ⅱ
担当者	野瀬 清喜

授業の概要

教職を目指す学生にとって必修となる科目であるため、生涯スポーツにつながる学齢期の健康とスポーツの在り方、スポーツの安全指導、応急処置、学校安全の組織作りなどを中心に理論を行った。実技指導では、学校体育で実施される球技を中心に授業展開を行った。教材としてはネット型種目、ゴール型種目を学生の希望別に3種目以上実施した。

授業の問題点

履修者が40名程度の授業では、運動量の確保もでき、学生は生き生きと活動していた。しかし、60名を超える授業では、体育館のスペースの問題からゲームを待つ待機の時間が多く、十分に期待に添うことができなかった。

火曜日の4時限は、休講が2回あり即位の礼、創立記念日もあり、後半の実技に対する意欲が欠けてしまった。

学生の授業満足度

初等教科教育法(体育)を含め、火曜日の健康科学Ⅱに対する満足度は高かった。これは、前述したように履修者の人数が適正で、授業に対する満足度が高かったものと思われる。これに対して木曜日3時限の健康科学Ⅱは、十分に学生の期待に添うことができなかった。

また、ネット型種目を選択する学生は、中程度の運動強度を好み、ゴール型種目選択の学生は、強度の高い運動を好む。授業後半になり、ゲーム中心の内容に飽きを感じたり、積極的に取り組まない学生が出たことは反省の材料である。

授業改善の課題と方策

次年度、入学者が100名を超える場合は、健康科学Ⅰは4クラスとなり、1クラス増える予定である。受講者数の課題は改善される。「実技のチームをしっかりと決めた方が良い」という意見からも授業の約束事やルールなどを徹底周知する必要があると感じた。次年度は、講義形式の授業で、実技を含めた「受講上の留意事項」や「チームごとの活動」の目標、計画、各授業のめあてなどを徹底し、活動の見通しを立てたい。

学生一人ひとりと向き合い、個別の達成目標やチームの課題を明確にしていく活動を重視していきたい。

その他

木曜3時限の健康科学Ⅱは1年生と2年生が受講しており、特に実技指導に関しては、配慮と工夫が必要である。